

富士見村住民投票



反対派に圧勝し、万歳して喜ぶ賛成派の住民ら

賛成派圧勝 合併へ一歩

前橋広域四市町村(前橋、大胡、宮城、粕川)との合併の是非を問う富士見村の住民投票が十四日、村内十カ所の投票所で行われ、即日開票の結果、「賛成」が八千四百四十一票に上り、「反対」の四千七百八十七票を三千三百五十四票も上回った。有効投票(無効百八票)に占める「賛成」の得票率は62・97%だった。

投票率は
74・27%

星野好孝村長は同日午後十一時すぎに記者会見し、「十五日に四市町村を訪問し、(前橋市との法定合併協議会設置に向け)今後の日程など合併に向けた協力をお願いしたい」と述べた。

富士見村で合併の是非を争点に民意が問われるのは、二月の前村長リコールや住民アンケートなどに続き四度目。前村長の「合併しない宣言」から一年半。星野村長は「一票でも多い意見を尊重する」と説明してきており、定まらなかつた村の進路が住民の意思でようやく決定した。

同村議会は十月末、住民投票条例案を全会一致で可決。その後、賛成、反対の住民団体が事務所を設置し、ビラの配布や宣伝カーで前哨戦を展開するなど、村内全域で激しい攻防を繰り広げた。

当日の住民投票資格者数は一万七千五百五十三人(男八千六百四十三人、女八千九百十人)。投票率は74・27%(男72・02%、女76・44%)だった。

賛成派の「富士見村合併推進会議」は、同村小沢の事務所での勝利集会(報告会)を開き、万歳やクラッカーを鳴らすなどして喜びを爆発させた。同会の諸田顕会長は、集まった約百五十人の支持者らを前に「よい成績で勝ち取ることができた。新しい道に富士見は歩んでいける。前橋も待っている。喜んで前橋へ向かっていこう」とあいさつした。